

2017年メディアアンビシャス大賞 受賞一覧（受賞者氏名の敬称略）

【活字部門】

▶大賞 沖縄全戦没者追悼式典での写真「沖縄の視線」
東京新聞デジタル版／中日新聞 6月23・24日
東京新聞編集局写真部 澤田将人

▶アンビシャス賞 連載「こころ揺らす」1-5部
北海道新聞4月2日から11月23日まで
北海道新聞編集局報道センター記者 村田 亮

▶メディア賞 「大阪の国有地 学校法人に売却／金額非公表 近隣の1割か」
朝日新聞2月9日
朝日新聞森友取材班
担当デスク 鎌内 勇樹（大阪社会部）
記者 吉村治彦
記者 飯島健太

▶入選 ①「言葉の現在地」計9回（冬上[Ⓜ]下、春上[Ⓜ]下、夏上[Ⓜ]下、秋）
北海道新聞 1月—11月の随時
北海道新聞編集局報道センター編集委員 関口 裕士

②1強企画第2部「パノプティコンの住人」
朝日新聞 4月18日から5回
朝日新聞政治部1強企画取材班
担当デスク 松田 京平
担当キャップ 蔵前 勝久ほか4人

【映像部門】

▶大賞 NNNドキュメント「お笑い芸人VS. 原発事故 マコ&ケンの原発取材2000日」
日本テレビ（放送：STV） 2月6日 上映55分
日本テレビ ディレクター 加藤 就一

▶アンビシャス賞 BS1スペシャル「父を捜して～日系オランダ人 終わらない戦争～」
NHKBS 10月8日 上映110分
椿プロ ディレクター 金本 麻理子

▶メディア賞 NNNドキュメント「記憶の澱」
山口放送（放送：STV） 12月4日 上映55分
山口放送 ディレクター 佐々木 聡

▶入選 FNSドキュメンタリー「生まれ島ぬ言葉忘ね 国忘ゆん」
沖縄テレビ（放送：UHB）10月15日 上映55分
沖縄テレビ プロデューサー 末吉 教彦
ディレクター 具志堅 洋太
カメラマン 赤嶺 一史

【特別賞】

東京新聞 記者 望月 衣塑子

選考経過

推薦の対象期間は2017年1年間。推薦は12月15日を1次締め切り、翌18年1月10日を追加などの最終締め切りとした。推薦候補は活字部門で27作品、映像部門で重複推薦を除いて58作品となった。審査は12月22日に1次審査、映像部門の集中上映（1月13、14日）を経て、1月28日に会員による最終審査会を開いた。候補作品は当会ホームページにアップし、会員に認められる投票はメールでも受けつけた。

【活字部門】ルポルタージュの単行本3作品が推薦されたが、新聞などとの媒体の違いが大きいため候補選考の対象外となった（のち1作品は記事体として読むことが可能となり、選考作品として扱うことになった）。審査は1次投票で上位作品を選び、審議後、再投票した。大賞の「沖縄の視線」は新聞報道写真としては初めての受賞。安倍首相に向けた翁長沖縄知事ら県民の視線は、辺野古問題などで沖縄の民意と異なる対応を続ける政府と沖縄の関係を1枚の写真で捉えている。

【映像部門】推薦多数のため、1次審査で上映12作品を選ぶとともに、候補の絞り込みを行い、29作品が審査対象となった。それでも多いため、3度の投票と審議を繰り返したうえ、最後は投票数と視聴数の割合の支持率を参照に、各賞を決めた。大賞とアンビシャス賞の両作品は集中上映12作品の中に入っておらず、投票参加者が自主的に鑑賞してきたものだった。大賞は漫才コンビマコ&ケンの専門家顔負けの取材ぶりを紹介し、既存マスコミのあり方にも一石を投じた。なお、道内テレビ局制作を対象にした「北海道賞」は5作品を審査対象としたが、表彰作品は選ばれなかった。

【特別賞】受賞者の望月衣塑子さん（東京新聞記者）に関し、著書の「新聞記者」が活字部門で、また官邸記者会見での菅官房長官への徹底した取材ぶりを紹介するユーチューブ映像が映像部門に推薦された。いずれもが、マスコミの最近のありように一石を投じる望月記者の活動ぶりを示すもので、特別賞を贈って、望月記者を応援することとした。